

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：32618

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2023

課題番号：18K00429

研究課題名(和文)ハーレム・ルネサンス期のアメリカ黒人文学文化にみる民族誌的自己成型の変容と受容

研究課題名(英文)Historicizing the Aesthetics of Call and Response: African American Self-Fashioning in the Harlem Renaissance

研究代表者

深瀬 有希子 (FUKASE, Yukiko)

実践女子大学・文学部・教授

研究者番号：20445696

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：主たる成果は、共編著『ハーレム・ルネサンス <ニュー・ニグロ>の文化社会批評』(2021年、明石書店)の出版である(2021年度科研費補助金・研究成果公開促進費 学術図書・課題番号21HP5035)。研究代表者は主たる編集者として本書を纏め、1920年代に環大西洋的に形成された「ニュー・ニグロ」の概念を領域横断的に提示した。アフリカ系の視点を軸に文化・社会・歴史・思想を捉え直そうとする本書は下記のように編成された。部『ハーレム・ルネサンス』の見取り図、部トランス・ナショナリズム/コスモポリタニズム、部広がる表象芸術の地平、部交錯する文芸の世界 小説・詩・民族誌的想像力。

研究成果の学術的意義や社会的意義

当該分野の研究は、国内では各論に特化した学術論文が主であった。しかし、研究成果としての共著『ハーレム・ルネサンス』が包括的な研究書としては初のもとなった。本芸術運動は、同時代のモダニズムの流れを受け、社会と文化、文学の複数ジャンルを横断し、かつ相互に影響しあって発展したゆえに、特定のジャンルやメディアに限定した通史的視点からでは全体像が「見えにくい」ままであった。それをふまえ本書は、アメリカ文学に加えて、英文学、フランス語圏文学、そして歴史、美術、表象文化、人類学、経済学等の領域横断的分析を行い、細分化された専門分野の視点からだけでは捉えにくい状況に光を当てる国内初の包括的研究書を目指した。

研究成果の概要(英文)：This essay collection __The Harlem Renaissance: Cultural and Social Critiques on the New Negro__(2021) presents recent critical arguments on the Harlem Renaissance or the New Negro Renaissance in the 1920s---the artistic, cultural, and social movement that African diasporas developed with the intersectional perspectives on race, ethnicity, gender, sexuality, and classes. Their network crossed the globe, beyond the Atlantic and the Caribbean Sea, even reaching Africa. This book intends to historicize this artistic and social movement, while admitting the significance of the special function that Harlem district played. This essay collection is divided into four parts: Part1, "Multiple Discourses on the Harlem Renaissance," Part2, "Transnationalism/Cosmopolitanism," Part3, "Extending the Field of Cultural Representations," and Part4 "Intertwining the World of Literature: African American Ethnographic Imagination."

研究分野：アフリカ系アメリカ文学文化

キーワード：ハーレム・ルネサンス ニュー・ニグロ 民族誌的自己成型 インターセクショナリティ プラグマティズム アレイン・ロック W・E・B・デュボイス トニ・モリスン

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

「ハーレム・ルネサンス」とは、1920年代から1930年代初頭にかけてマンハッタン北部に位置するハーレム地区を拠点に、アフリカ系アメリカ人を主たる担い手として展開した文化芸術運動とされている。本研究課題は、ハーレム・ルネサンス期からおよそ百年後の現在の視点から、最新の言説史を参照しつつ、アフリカ系アメリカ文学および表象芸術の分野について、人種、民族、ジェンダー、セクシュアリティ、階級など多様な観点から、この文化芸術運動によって成型された民族誌的アイデンティティについて考察することを目指した。

また、2020年に世界規模で展開した「ブラック・ライヴズ・マター」運動によってより明らかな形で顕在化した21世紀における人種と階級をめぐる社会構造的な問題を考察するためにも、百年をさかのぼった時期に、いかに人種・民族的アイデンティティが、ひとつの国家にとどまらない文化的社会的交流を経て、創りあげられたかを明らかにすることを目指した。

2. 研究の目的

本研究は、広く「民族誌」(小説、新聞、雑誌、絵画、フィールドワーク調査書)を書く/描くことにより仮構的に成型されたアフリカ系アメリカ人作家芸術家の自己のふるまいの変化とそれへの応答を分析する。具体的には、上記の表現形態に関わる一次資料収集とその分析により、主に以下の二つ問題点を明らかにすることを目的とする。一つは、アフリカ系アメリカ人作家芸術家によるニューディール・リベラリズムに対する批判的態度の萌芽は、1920年代の排他的なネイティヴィズムに対して彼らがなした文化的社会的抵抗に見出されるのではないか、という点。そして二つ目はアフリカ系アメリカ人作家芸術家に経済的かつ審美的影響を与えた白人パトロンや白人読者消費者の陰には、不可視となっていた文化受容者層としての黒人民衆の存在があった。そして彼らは、アフリカ系アメリカ人の口承文化の特徴とされる「コール・アンド・レスポンス」の構造を、文字と視覚を媒体とする文化活動においても援用し、ニュー・ニグロの芸術的自律を可能ならしめたのではないか。こうした問題意識をもとに、1920年代に展開したアフリカ系アメリカ人による文化活動こそが、植民地主義の負の遺産に対してこんにちグローバルに展開する抗議活動につながる、インターセクショナリティの概念の理論化と実践そのものであることを示そうとした。

3. 研究の方法

本研究が当初予定していた研究方法の一つは米国における一次資料の収集であった。しかしながらコロナ禍によって、研究期間の半分はその方法が取れなかったため、国内からアクセス可能なデータベースの利用、さらにzoomなどのオンライン上での学会活動を通じて研究を進めていった。具体的には、以下の方法をとった。

前半(2018年度から2021年度): 1920年代黒人新聞に関する基本的知識の整理、一次資料収集と分析、具体的には、1920年代前後のハーレムで流通していた黒人新聞(*New York Age*など)に関する基本的知識(出版経緯、編者、発行部数、発行場所など)の確認から始めた。同時に、個々の新聞に掲載された情報内容の分類、レイアウト、画像を分析した。こうした作業をもとに、民族誌たる当時の黒人新聞が、「想像の共同体」としての「ハーレム」、すなわち、ディアスポラのな時空間の越境を前提とする共時的認識を生み出したのではないかと論じた。

後半(2021年度から2023年度): 黒人雑誌に掲載された黒人芸術家による絵画に関する一次資料の収集と分析。具体的には、黒人文芸思想雑誌の表紙や内部に掲載されたアメリカ黒人芸術家による絵画作品の収集と分析を行った。2022年は、ペンシルヴェニア州フィラデルフィアにあるバーンズ・ファウンデーションでの英国出身黒人映像芸術家アイザック・ジュリアンの展覧会観覧を予定していたが、コロナ罹患のため直前キャンセルとなり叶わなかった。しかしながら、当該美術館のホームページや、同年に当財団と縁のあるペンシルヴェニア州リンカーン大学(もともとは黒人大学として創設)によって初公開されたアルバート・バーンズ関連データベースによって、当初は想定していなかった情報も入手することができ、それをふまえて、研究発表活動を進めた。

4. 研究成果

本研究の主たる成果は、共編著『ハーレム・ルネサンス <ニュー・ニグロ>の文化社会批評』(2021年8月、明石書店)の出版である(2021年度科研費補助金・研究成果公開促進費 学術図書・課題番号21HP5035)。研究代表者(深瀬)は、本課題採択の初年度である2018年度以降から、シンポジウム等の企画および開催を経て本課題についての議論を深め、最終的には本書の主たる編集者として、計25本の論のほか、4本のコラム、年表・図版・参考文献リストを配した本書を上梓し、1920年代に環大西洋的に形成された「ニュー・ニグロ」の概念を、領域横断的に提示した。上記の「研究開始当初の背景」でも記したように、21世紀アメリカ合衆国の現在と未来を検討する上でも、アフリカ系の視点を軸に、領域横断的な視座を通して文化・社会・歴史・思想を捉え直そうとする本書は、本芸術運動に関する次の三点(1.時代区分を問い直す、

2. 地理的区分を問い直す、3. 「ハーレム・ルネサンスという定義を問い直す」を明らかにすべく、最終的には四部にて編成された。（「第部『ハーレム・ルネサンス』の見取り図」、「第部 トランス・ナショナリズム／コスモポリタニズム」、「第部 広がる表象芸術の地平」、「第部 交錯する文芸の世界 小説・詩・民族誌的想像力」）それぞれの部においては、より具体的にいうと、複数のメディア（小説・詩・新聞・音楽・映画・絵画・演劇・スポーツなど）によって、複数の言語（主に、英語とフランス語）によって形成された、「ニュー・ニグロ」ならびに、「ブラック・モダニティ」、「アフリカン・アメリカンの生」のありかたを包括的に提示した。本書を編纂中の2021年は依然として、コロナ禍のなか、Black Lives Matter（ブラック・ライヴズ・マター）運動が展開していた。本研究は、百年前にさかのぼる1920年代という時代から、この運動の理解のための歴史的、思想的視座を提供することを試みた。

この研究成果の学術的意義ならびに社会的意義については、日本国内では、当該分野の研究は、各論に特化した学術論文が主であったところ、本書が包括的な研究書としては初めてのものとなった点を挙げるができるだろう。批評史を確認すると、本芸術運動は、同時代のモダニズムの流れを受け、社会と文化、文学の複数ジャンルを横断し、かつ相互に影響しあって発展したゆえに、特定のジャンルやメディアに限定した通史的視点からでは全体像が「見えにくい」ままであった。しかしそれを背景に本書は、アメリカ文学のみならず英文学、フランス語圏文学、そして歴史、美術、表象文化（音楽、映画、演劇）、人類学、経済学などの領域を横断した執筆陣を擁し、細分化された専門分野の視点からだけでは「見えにくい」状況に光を当てる国内初の包括的な研究書となることを目指し、このテーマにまつわる決定版となるべく纏められた。

本研究課題遂行の後半は、600頁を超える本書においてもまだ、紙幅の関係から含めることができなかつた内容について考察を深めた。その一つの成果として、1920年代のニューヨーク公共図書館とアフリカ系アメリカ人の民族誌的アイデンティティ成型の問題を、フレデリック・ワイズマン監督のドキュメンタリー映画『ニューヨーク公共図書館』に関する論考「民主主義の柱、アクティヴィズムの現場『ニューヨーク公共図書館 エクス・リプリス』への小説的アプローチ」（『ユリイカ』2021年）によって示した。またさらに、この「ハーレム」という場所が、100年以上たった現在においても、文学・文化的な想像力を掻き立てていることを、論文「ファースト・ジェントルマン、あるいは「黒い」元黒人大統領の体験記『アフターライフ・イン・ハーレム』にみるクリントンの肖像」（『アメリカ文学と大統領 文学史と文化史』2023年）で示した。

それらをふまえて、研究最終年度にかけて、例えば2021年度の後期は、これまでさまざまな文化的媒体のなかで見出ししてきた1920年代における「ニュー・ニグロ」の概念と、それが1930年代から1950年代に展開してく様子とを、プラグマティズムという概念から発展的に説明できるかどうかを考察すべく、基本文献の収集と読解を進めた。それをうけて2022年度前半は、1920年代ハーレム・ルネサンスの展開を、「教育」と「1960年代公民権運動」という、二つの視点から考察した。この議論は次の二つの公開講座によって専門家ならびに一般聴衆者と共有された。一つは、蜘蛛と篝企画オンライン特別講座 2022年9月11日「ニュー・ニグロの美術教育から公民権運動へ ロック、デュエイ、バーンズ」そして二つ目は、同志社大学 アメリカ研究所 2022年度 部門研究（第一部門）講演会 2022年9月20日、「Isaac Julien “Once Again ... (Statues Never Die)” にみるインターセクショナリティ ハーレム・ルネサンスから BLM 運動へ」である。これらの発表は、最終的には2024年に、後者のタイトルの論文として『同志社アメリカ研究（別冊）』で公開された。

またさらに、研究期間後半は、「作家のキャリア」という問題についてもシンポジウムでの発表を行った（アメリカ文学会東京支部 12月例会 2022年12月10日 於 慶應義塾大学三田キャンパス シンポジウム「作家のキャリア」を研究すること 現在地とこれから「モリスンが編む、モリスンを編む 文学史というキャリア」）。この「作家のキャリア」というテーマは、前半に中心的に行った研究テーマとは一見すると異なるようにも思えるが、「ハーレム・ルネサンス」という歴史的区分や文学史区分がどのように作られたのか、すなわち言説を分析する、さらに、作家というアイデンティティの成型という点において、テーマの共通性を維持していたといえる。

本研究年度が2018年度から2024年度までという当初の予定を二年超える長さになってしまったのは、ひとえに、コロナ禍のためである。実際、当初計画していた米国での資料収集が可能となったのは、最終年度であった。上記「研究の方法」でも記した、大学図書館での一次資料の収集作業が限定されたものとなり、アクセス可能なアーカイヴの利用によって進められた。しかしながら、最終年度では、アフリカ系アメリカ女性芸術家（彫刻家・劇作家）ミタ・ワリック・フラーの活動を、「1920年代のハーレム」という時代と場所を越える視点から調査した。ハーレム・ルネサンスが、時代、場所、ジェンダーなど様々な意味において脱領域的な芸術・社会的活動であったことは、前述したように、本課題期間中に出版した『ハーレム・ルネサンス』（2021年）によってすでに示した。しかし、本調査によって以下の興味深い点が確認された。フラーは、ペンシルヴェニア州フィラデルフィアで生まれ、19世紀末から20世紀初頭にはパリで、彫刻家オーギュスト・ロダンの弟子として芸術活動を深めていく。興味深いのは、彼女がパリから帰国後、黒人として初の精神科医となるソロモン・フラーと結婚し、マサチューセッツ州のフラミンガムに住み、以後1953年に没するまで当地に住み続けながら黒人芸術表現を追求した点である。フラミンガムの白人コミュニティに住まう初めての黒人夫婦としての彼女の軌跡を、実

際に彼女の作品が展示されたこともあるボストン公共図書館や周辺図書館にて調査した。その結果、本課題を発展するためのヒントとなるある一つの歴史的事実を再確認することができた。英米間の独立戦争の端緒となる「ボストン虐殺」事件にて最初の犠牲者となった人物クリスパス・アタックスとフラワーとの時間を越えた接点である。ネイティブ・アメリカンと黒人との混血といわれるアタックスとフラワーはともにマサチューセッツ州フラミンガムにて、約二百年の時を隔てているとは言え、独特な政治的文化的遺産を共有することとなる。1920年代のハーレム・ルネサンスを代表とする黒人女性芸術家フラワーから翻って18世紀合衆国独立のナラティブを迎えること。このような思索の可能性を現地調査によって確認し本課題のまとめとした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 深瀬有希子	4. 巻 60
2. 論文標題 Isaac Julien "Once Again ... (Statues Never Die)" にみるインターセクショナルリティーハーレム・ルネサンスからBLM運動へ	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 同志社アメリカ研究（別冊）	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 深瀬有希子	4. 巻 783
2. 論文標題 民主主義の柱、アクティヴィズムの現場 『ニューヨーク公共図書館 エクス・リプリス』 への小説的アプローチ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 184-192
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 深瀬有希子	4. 巻 13
2. 論文標題 トニ・モリスンの『ジャズ』にみるハーレムの読者たち 1926年『クライシス』誌上シンポジウムへの一応答	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 多民族研究	6. 最初と最後の頁 68-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 深瀬有希子	4. 巻 13
2. 論文標題 ハーレム・ルネサンスの地平 The Arts of Modern Black Bodies	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 多民族研究	6. 最初と最後の頁 7-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 深瀬有希子
2. 発表標題 Calling for the Deposition Abortion Rap (1971)とChoice Words (2020)に聴く、せめぎあう声
3. 学会等名 アメリカ学会第57回年次大会シンポジウム「性と生殖をめぐる正義 (reproductive justice)の行方 奴隷制時代からロウ対ウェイド判決後まで (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 深瀬有希子
2. 発表標題 ニュー・ニグロの美術教育から公民権運動へ ロック、デューイ、バーンズ
3. 学会等名 蜘蛛と篝企画オンライン特別講座 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 深瀬有希子
2. 発表標題 Isaac Julien "Once Again ... (Statues Never Die)" にみるインターセクショナルリティ ハーレム・ルネサンスからBLM運動へ
3. 学会等名 同志社大学アメリカ研究所 2022 年度 部門研究 (第一部門) 講演会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 深瀬有希子
2. 発表標題 モリスンが編む、モリスンを編む 文学史というキャリア
3. 学会等名 アメリカ文学会東京支部12月例会シンポジウム「作家のキャリア」を研究すること 現在地とこれから (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 深瀬有希子
2. 発表標題 禁じられたクラブへの招待状 モリスンの「黒人」大統領発言を再読する
3. 学会等名 黒人研究学会例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 深瀬有希子
2. 発表標題 ハーレムの読者たち トニ・モリスンの『ジャズ』にみる共時的感覚と民族誌的自己成型
3. 学会等名 多民族研究学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 深瀬有希子
2. 発表標題 “Reading 1926” ドイツ、メキシコ、「ハーレム」よりみる黒人民衆と プロパガンダ
3. 学会等名 黒人研究学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 深瀬有希子、巽孝之、大串尚代、佐藤光重、常山菜穂子ほか24名	4. 発行年 2023年
2. 出版社 南雲堂	5. 総ページ数 537
3. 書名 アメリカ文学と大統領 文学史と文化史	

1. 著者名 深瀬有希子、常山菜穂子、中垣恒太郎、松本昇ほか27名	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 610
3. 書名 ハーレム・ルネサンス <ニュー・ニグロ>の文化社会批評	

1. 著者名 深瀬有希子、川島浩平、田中正之、黒崎真、小林亜由美、永尾悟、峯真衣子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 金星堂	5. 総ページ数 142
3. 書名 多民族研究第13号2020	

1. 著者名 深瀬有希子、西加奈子、荒このみ、大社淑子、温又柔、新田啓子、藤平育子、森あおい、鶴殿えりか、青木耕平、佐久間由梨、高村峰生、押野素子、小澤みゆき、諏訪部浩一、有光道生、富塚亮平、小林富久子、石川千暁、宮本敬子、阿部幸大、逆巻しとね	4. 発行年 2019年
2. 出版社 青土社	5. 総ページ数 229
3. 書名 ユリイカ 特集トニ・モリスン	

1. 著者名 深瀬有希子、巽孝之、宇沢美子、秋元孝文、有光道生、石原剛、大串尚代、大和田俊之、奥田暁代、尾崎俊介、加藤有佳織、白川恵子、佐久間みかよ、佐久間由梨、辻秀雄、常山菜穂子、中垣恒太郎、長澤唯史、若林麻希子、渡邊真理子、渡部桃子ほか計43名	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 232
3. 書名 よくわかるアメリカ文化史	

1. 著者名 山口和彦、中谷崇、深瀬有希子、山本洋平、辻秀雄、安原義博、遠藤朋之、佐々木真理、渡邊真理子、渡邊克昭	4. 発行年 2018年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 333
3. 書名 揺れ動く 保守	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------